審判上の確認事項

審判委員長

1　本大会は、2022 年度（公財）日本バレーボール協会 6 人制競技規則及び（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部における「6 人制ルールの取り扱い」についてを適用する。

2　タイムアウトの要求は、監督が該当するハンドシグナルを示し要求しなければならない。
また、大会本部が認めた特別な理由で監督不在の場合は、ゲームキャプテンのみタイムアウトの要求ができる。
なお、監督はラリー中、チームベンチの記録席に最も近い位置に座る。
（但し、ベスト 4 リーグのみ監督は試合を妨げたり、遅らせたりしなければ、
自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまで
のフリーゾーン内で、ラリー中であっても立ちながら歩きながらでも指示を
出すことができる。）

3　選手交代は、選手交代ゾーンにプレーする準備のできた交代選手が入り、セカンドレフェリーのホイッスルにより許可される。（2 組以上の選手交代を同時にしようとするときは、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。）

4　リベロプレーヤーについて
① リベロプレーヤーは、チームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。
② リベロプレーヤーが、サービス許可の吹笛後に交代することは拒否されないが、ラリー終了後、口頭で注意される。同一試合中に繰り返した場合は、遅延の制裁の対象となる。
③ リベロプレーヤーがジャケットを着用する場合は、公式練習終了後、整列の際に着用する。

5　選手・スタッフの不法な行為について
（ｽﾃｰｼﾞ 1：口頭警告、ｽﾃｰｼﾞ 2：ｲｴﾛｰｶｰﾄﾞ／ﾍﾟﾅﾙﾃｨ：ﾚｯﾄﾞｶｰﾄﾞ／退場／失格）
① ファーストレフェリーが、最終判定を出した後にも、レフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
② 監督が、セカンドレフェリーやスコアラーに説明を求めたり、長引かせるような話しかけをした場合。
③ 無作法な行為：よいマナーや道徳の原則に反した行為。
④ 侮辱的な行為：中傷的、または侮辱するような言葉やジェスチャー、軽蔑を表す行為。
⑤ 攻撃的な行為：身体的攻撃、または攻撃的・威嚇的な行為。
⑥ あらゆる暴言・体罰に該当する行為。

※審判団や相手チームに対してのみではなく、自チーム内での上記行為も罰則の対象となる。
※ファーストレフェリーの判定に対する質問は、ゲームキャプテンのみ受け入れられる。
その内容については、ルールの取り扱い等に関する質問のみとする。抗議や意見を述べたり、クレームについては拒否し、場合によっては警告または罰則を適用する。

6　コートワイピングについて

① ゲーム中は、コート内の 6 人がワイピングタオルを持ち、拭くことを原則とする。
（チームでワイピングタオルの準備をしておくこと。）

② タイムアウト、各セット間は、各チームでモップをかけてもよい。

③ ゲーム中については、審判の判断でモップを入れること。
（チームの選手・スタッフの判断で、モップを入れない。）

7　チームのハドル（円陣）について

セット開始前のチームのハドル（円陣）は、ポジションの確認前でも後でも認める。
但し、最大 7 名とする。